

「つながっている」

広島県 萬福寺住職 高橋道英

私は毎年冬に、人間ドックへ行くことにしています。コロナ禍にも関わらず、昨年もちやんと検診を受けました。その結果、なんと癌が発見されたのです。

告知を受けると、さすがに落ち込みました。「なんで自分が癌に…前は胃がん、今度は大腸がん…まさか二度も癌になるとは…人生ついてないなあ…」次々と愚痴が出ます。毎年検診を受けているのだから、きっと早期のはずと自分に言い聞かせてみますが、「進行していたら…転移していたら…」と不安もつきません。

そんな時、尊敬する和尚さまの言葉を思い出しました。「下り坂には 下り坂の風景がある」と。いくら愚痴を言っても、病気がなかったことにはなりません。いくら悩んでみても、どうにもならないこともあるのです。ならば、いっそ病気になったからこそ見ることができ、風景を見せて頂こうと思いなおしました。そして「楽しい入院生活」を目標に手術にむかいました。

しかし、術後の身体は、自分のものではないようで、ちょっとしたことが、思い通りになりません。身体を起こすこと、歩くことも大変でした。中でも辛かったのは咳をすることです。「たかが咳」と、思いになるかもしれませんが、手術後の咳は足の先まで痛みが走ります。その強烈な痛みは身体全体にひびきます。それまで、咳は咽のことだと思っていきましたが、

全身で咳をしていることに気づきました。そして、改めて身体はつながっていると実感したのです。

このことを、広く大きく廻らせてみますと、遠い国の争いでも、ひいては自分の国にも影響が出ます。国と国とはつながっているのですから。あなたが何気なく捨てたゴミが、川を流れ海に入り、魚が食べ、その魚をあなたが食べる。あなたと環境は、つながっているという事です。それぞれは別の存在ですが、必ずつながっている存在なのです。そのことに気づけば、わがままな生き方などできないはずです。更に自分は孤独だと思っている人へ、あなたも必ず誰かとつながっているのです。